

「平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査結果」の概要

1 全国学力・学習状況調査の実施状況

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

※H19年度調査開始。H22・24年度は抽出調査、他年度は悉皆調査。

(震災により、H23年度は未実施、H28年度は一部未実施。)

(2) 調査の実施日 平成31年4月18日(木)

(3) 岡山県の実施人数

	小学校【対象：第6学年】	中学校【対象：第3学年】
県受検者数	16,279人 (381校)	15,135人 (157校)
全国受検者数	1,028,203人 (19,263校)	938,888人 (9,513校)

※ 数値は、調査日に実施した公立学校の児童生徒数。括弧内の数値は、実施公立学校数。

2 学力調査の結果

※ 順位は、公表された整数値に基づいて本県独自に算出。

【小学校 平均正答率〔%〕】

年度		国語		算数		国算計
		正答率	順位	正答率	順位	順位
H31	岡山県	64	23	65	33	29
	全国	63.8		66.6		

(参考) 昨年度までの結果

年度		国語A		国語B		算数A		算数B		国算計
		正答率	順位	正答率	順位	正答率	順位	正答率	順位	順位
H30	岡山県	71	18	54	27	62	33	50	31	31
	全国	70.7		54.7		63.5		51.5		
H29	岡山県	75	21	58	15	79	19	46	12	19
	全国	74.8		57.5		78.6		45.9		
H28	岡山県	72.6	27	57.5	29	77.2	27	47.3	15	25
	全国	72.9		57.8		77.6		47.2		
H27	岡山県	69.2	34	64.5	31	75.2	21	44.8	23	28
	全国	70.0		65.4		75.2		45.0		

【中学校 平均正答率〔%〕】

年度		国語		数学		英語		国数計
		正答率	順位	正答率	順位	正答率	順位	順位
H31	岡山県	73	17	60	15	54	32	19
	全国	72.8		59.8		56.0		

※ 英語の「話すこと」調査は参考値のため、正答率には含まれていない。

(参考) 昨年度までの結果

年度		国語A		国語B		数学A		数学B		国数計
		正答率	順位	正答率	順位	正答率	順位	正答率	順位	順位
H30	岡山県	76	20	59	39	65	28	44	41	40
	全国	76.1		61.2		66.1		46.9		
H29	岡山県	77	27	71	34	64	23	47	29	34
	全国	77.4		72.2		64.6		48.1		
H28	岡山県	74.7	37	63.8	42	60.3	36	41.4	40	41
	全国	75.6		66.5		62.2		44.1		
H27	岡山県	74.8	38	63.5	43	62.9	39	38.3	43	41
	全国	75.8		65.8		64.4		41.6		

今年度から、A、B問題の区別をなくし、知識と活用を一体的に問う問題に変更された。

○小学校の国語では、全国平均と同程度であったが、算数では、全国平均を下回った。

○中学校では、国語、数学において全国平均と同程度であった。また、英語は全国平均を下回った。

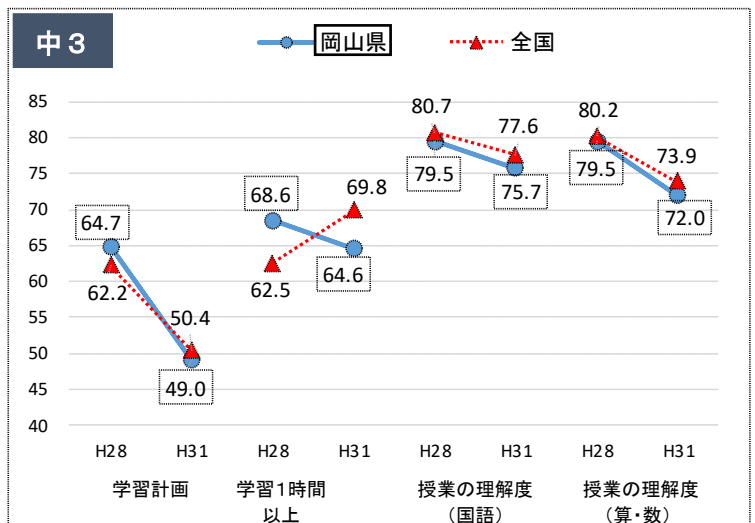
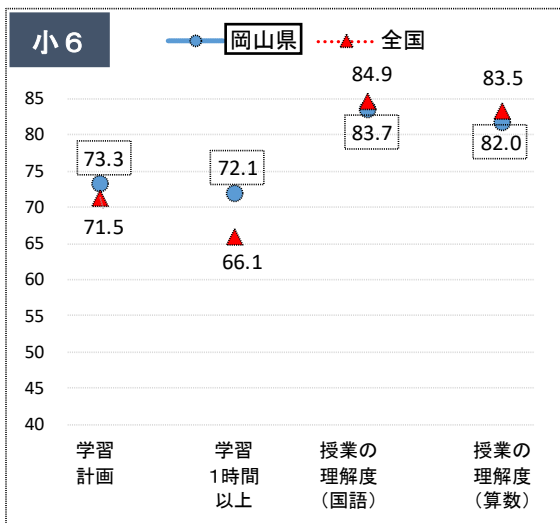
3 学習状況調査の結果

○ 児童生徒質問紙は、児童生徒一人一人が回答し、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査である。

【質問項目】

- 1 自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学習計画)
- 2 学校の授業時間以外に、平日1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習1時間以上)
- 3 国語の授業の内容はよく分かりますか。(授業の理解度)
- 4 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。(授業の理解度)

学習状況調査結果における肯定的回答の割合 [単位：％] ※ H28については、同一集団の小6時の値。



(参考) 過去3年間の状況 (矢印は前年度の数値と比べた増減を表している。)

小6

年度	学習計画	学習1時間以上	理解度(国語)	理解度(算数)
H29	67.1	71.0	81.3	80.8
H30	70.1 ↑	72.7 ↑	—	82.5 ↑
H31	73.3 ↑	72.1 ↓	83.7 ↑	82.0 ↓

中3

年度	学習計画	学習1時間以上	理解度(国語)	理解度(数学)
H29	50.0	59.2	73.2	66.4
H30	50.9 ↑	60.4 ↑	—	67.6 ↑
H31	49.0 ↓	64.6 ↑	75.7 ↑	72.0 ↑

○小学校においては、学習計画、学習1時間以上の項目で全国平均を上回っており、望ましい学習習慣が形成されている。一方で、授業の理解度については、国語、算数ともに全国平均を下回っていることから、児童にとって「分かる」「できる」授業づくりに向けての取組をさらに進める必要がある。

○中学校においては、4項目全てで全国平均を下回っている。一方で、同一集団の比較ではないが、3年間の推移を見ると、学習1時間以上や授業の理解度の項目において、肯定的回答の割合が増えていることから、中学校における授業改善や学習習慣の定着に向けた取組が着実に進んでいると言える。

4 設問から見える成果と課題

■ 小学校国語

【全国平均を上回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 [%]		
		県	全国	差
1四 (1) ア	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部アを、漢字を使って書き直す（調査のたいしょう）	47.4	41.9	5.5
1一	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する	72.8	71.2	1.6

【全国平均を下回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 [%]		
		県	全国	差
3三	【インタビューの様子】の「イ」に、豊職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	67.4	68.2	-0.8
2一 (2)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の「イ」に、疑問に思ったことの②に対する答えになるように考えて書く	75.3	75.9	-0.6

- 漢字を文の中で正しく使う設問や、文章の中に図表やグラフを用いた目的を捉える設問は、全国平均を上回った。
- 相手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる設問や、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、条件に沿って自分の考えを書く設問で全国平均を下回った。

■ 小学校算数

【全国平均と同程度の設問】

設問番号	設問の概要	正答率 [%]		
		県	全国	差
2 (1)	1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ	95.1	95.2	-0.1
1 (1)	長方形を直線で切った図形の中から、台形を選ぶ	92.9	93.1	-0.2

【全国平均を下回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 [%]		
		県	全国	差
2 (4)	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する	57.1	60.1	-3.0
2 (3)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだだけを書く	49.6	52.1	-2.5

- 図形の性質や構成要素に着目して台形を弁別する設問や、目的に応じて、棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る設問は全国平均と同程度であった。
- 加法と乗法の混合した整数と小数の計算について、計算の順序の決まりを理解して計算する設問や2つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、1人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を記述する設問で全国平均を下回った。

■ 中学校国語

【全国平均を上回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 [%]		
		県	全国	差
1四	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く	58.2	56.8	1.4
2一	話し合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	81.7	80.4	1.3

【全国平均を下回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 [%]		
		県	全国	差
1二	「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する	60.4	61.5	-1.1
2三	話し合いの流れを踏まえ「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く	59.4	60.4	-1.0

- ・封筒の書き方を理解して書く設問や、話し合いの話題や方向を捉える設問では、全国平均を上回った。
- ・文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える設問や、話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えを書く設問では、全国平均を下回った。

■ 中学校数学

【全国平均を上回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 [%]		
		県	全国	差
1	a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ	65.6	62.2	3.4
4	反比例の表から式を求める	52.9	48.9	4.0

【全国平均を下回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 [%]		
		県	全国	差
8(2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切でない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	39.3	40.8	-1.5
9(2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	57.9	59.7	-1.8

- ・四則計算の結果の特徴を捉え、数の集合と四則計算の可能性について理解することができるかどうかをみる設問で、全国平均を上回った。
- ・反比例の表から式を求めることができるかどうかをみる設問で、全国平均を上回った。
- ・判断の理由を数学的な表現を用いて説明したり、事柄が成り立つ理由を文字を用いた式で説明したりすることができるかどうかをみる設問で、全国平均を下回った。

■ 中学校英語

【全国平均を上回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 [%]		
		県	全国	差
9(1) ①	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	81.2	79.9	1.3

【全国平均を下回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 [%]		
		県	全国	差
7	チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する	30.3	32.8	-2.5
9(3) ②	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	26.8	32.9	-6.1

- ・文の中で適切に接続詞 (if) を用いることができるかどうかをみる設問では、全国平均を上回った。
- ・まとまりのある文章を読んで説明文の大切な部分を理解する設問や、一般動詞の3人称単数現在時制の英文 (肯定文) を書く設問では、全国平均を下回った。

5 今後の取組

県教委の取組

【取組の検証・点検】

- 結果を分析するとともに、これまでの取組の検証を行い、2学期以降の取組を焦点化する。

【学力定着状況を踏まえた授業改善の推進】

- 学習指導のスタンダード増補版に基づき、授業改善を一步先へ進めるべく、内容の周知に努めるとともに、国の学力調査官を招聘した授業公開を含む研修講座への積極的な参加を促すなど、授業の質的向上に向けた取組を進める。
- 県全体や市町村で課題が見られた設問に関する指導資料等を作成・配付し、各学校の実態に応じた課題解決を進めるべく、学力向上プロジェクトチームが中心となり、市町村教育委員会と協同しながら各学校への指導・支援の充実を図る。
- 個に応じたプリントを作成できる Web 評価支援システムの積極的な活用を促すとともに、放課後学習サポート事業により、各学校が放課後等に実施する補充的な学習指導を支援する。

【望ましい学習習慣確立の支援】

- 各課連携により、メディアの適切な利用について児童生徒に考えさせるとともに、保護者への周知を進める。
- 中学校における家庭学習習慣の更なる定着を促すため、家庭学習のスタンダード増補版に基づき、授業と家庭学習（宿題）の連動を図り、生徒の意欲を高める指導となるようサイクル（C）とフィードバック（F）の取組の実践を支援する。

各学校の取組

次のような取組を、市町村教委と連携しながら進めることで、各学校における学力向上に向けた取組の改善を進めていく。

【取組の検証】

- 2学期以降の取組の改善プラン作成に当たり、学力向上担当者が中心となり、自校の結果分析及びこれまでの取組の検証、改善の方向性の確認を全校で行う。

【授業改善の更なる推進】

- 校長が授業を参観し、教員に適切にフィードバックするとともに、県教委作成の教材や Web 評価支援システムを効果的に活用し、課題が見られた設問の改善状況や学習の定着を把握することに努める。
- 県教委作成の指導資料等を活用するなど、児童生徒が主役となる授業づくりや、習得した知識・技能を活用する授業改善に取り組む。
- 作成した改善プランを基に、実施学年で成果が見えた内容について、他学年においても継続した指導に丁寧に取り組む。

【望ましい学習習慣の形成】

- 家庭学習のスタンダード増補版により、全教職員で定着につながる家庭学習についての「共通理解」と「取組の共有」を図り、定着度を意識したフィードバック（添削やコメントの付記）を行う。また、授業とつながる家庭学習の課題を出すとともに、短いサイクルで定着度を把握する点検サイクルの確立を推進する。
- 中下位層の課題解消に向け、家庭学習（宿題＋自主学習）の添削や放課後等を活用した補充学習の充実、個に応じた課題の提供など、児童生徒の学習意欲を高めるとともに、つまずき解消に向けた取組の工夫を図る。
- 小学校で身に付けた学習習慣を中学校に継承するため、小中連携の場においても家庭学習における学習時間の目安、課題の質と量、適切な点検と評価、方法等についても協議をする。

【参考】市町村別の状況

※ 学力調査の結果 平均正答率(教科別)

名称		小学校6年生		中学校3年生		
		国語	算数	国語	数学	英語
全国(公立)		64	67	73	60	56
岡山県(公立)		64	65	73	60	54
1	岡山市教育委員会	65	66	72	60	54
2	倉敷市教育委員会	65	65	71	58	53
3	津山市教育委員会	62	62	69	57	51
4	玉野市教育委員会	61	62	73	59	56
5	笠岡市教育委員会	66	65	73	59	54
6	井原市教育委員会	65	66	73	58	52
7	総社市教育委員会	64	65	75	63	53
8	高梁市教育委員会	67	63	71	60	53
9	新見市教育委員会	62	64	74	59	56
10	備前市教育委員会	63	64	75	62	57
11	瀬戸内市教育委員会	67	66	76	62	55
12	赤磐市教育委員会	63	64	72	58	53
13	真庭市教育委員会	62	64	72	58	50
14	美作市教育委員会	58	58	69	57	51
15	浅口市教育委員会	65	66	71	62	57
16	和気町教育委員会	64	68	77	63	55
17	早島町教育委員会					
18	里庄町教育委員会	68	67			
19	矢掛町教育委員会	68	67			
20	新庄村教育委員会					
21	鏡野町教育委員会	62	65			
22	勝央町教育委員会	54	56			
23	奈義町教育委員会					
24	西粟倉村教育委員会					
25	久米南町教育委員会	62	63			
26	美咲町教育委員会	65	67	75	60	52
27	吉備中央町教育委員会	63	61			
28	笠岡市・矢掛町中学校組合					
29	県立学校			93	89	83

※ 斜線の町村は、該当の学校が1校のため、公表の対象としない。

※ 県立特別支援学校(小学部)は、受検者が少数であるため、公表の対象としない。

※ 県立学校には、県立特別支援学校(中学部)、県立中学校・中等教育学校が含まれる。